

第1回稲沢市公共施設のあり方検討委員会 会議録

【日 時】平成23年11月17日（木） 午後2時～午後4時15分

【場 所】稲沢市役所議員総会室

【出席者】稲沢市公共施設のあり方検討委員会委員（敬称略）

谷口 元	名古屋大学総長補佐・全学施設計画推進室長・大学院工学研究科教授
古川行光	元愛知県教育委員会事務局管理部長
栗林芳彦	名古屋文理大学情報文化学部PR学科長・教授
萩原聡央	名古屋経済大学法学部准教授
吉田哲夫	元稲沢市教育委員会教育部長
三枝知美	公募
中西 弘	公募

〈事務局〉

大野紀明	市長
真野宏男	市長公室長
篠田智徳	企画課長
宮島崇志	企画課統括主幹
吉川修司	企画課主査
横田明典	企画課主任

【議事次第】

○委嘱状交付

- 1 市長あいさつ
- 2 委員長及び副委員長の選出
- 3 議事
 - (1) 公共施設の現状と課題について
 - (2) 稲沢市の人口動向について
 - (3) 「稲沢市のこれからの公共施設のあり方に関する市民意識調査」について
 - (4) その他
- 4 市長公室長あいさつ

【会議の概要】

○委嘱状交付

市長から各委員に対し委嘱状を交付

1 市長あいさつ

本日は皆様大変お忙しい中、第1回稲沢市公共施設のあり方検討委員会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。日頃は市政各般にわたりまして御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。ただ今、委員の皆様方に委嘱状を交付させていただきました。本当にお忙しい方ばかりでございますが、快くお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。重ねて厚く御礼申し上げます。

日本の総人口の減少、少子高齢化が進んでおりまして、まだまだ今後も止まる気配がございません。稲沢市も安心・安全・元気なまちをつくるということで日々努力しておりますが、将来の稲沢市を持続的に発展させるため、この公共施設のあり方検討委員会を設置いたしました。

昭和33年の市制施行の折には市の人口規模は5万人でしたが、その後10万人を超過、平成17年4月1日に祖父江町・平和町と合併いたしました現在は13万8千人の人口を有する市になりました。その発展の背景に、昭和40年代から50年代にかけての高度経済成長から始まる人口の増加がございます。その時代に学校を分離するなど、多くの公共施設を建設してまいりました。これらの施設は市民生活になくてはならないものとして今日までそれぞれの役割を果たしてまいりましたが、市民のニーズが当時と異なってきたり、ライフスタイルの多様化が進んだりということで、施設を取り巻く環境が大きく変化してまいりました。

また、昭和40年代といえますと、既に40年以上経過しておりまして、建物も更新の時期になってまいりました。今後の少子高齢化の中でこれらの施設を全部維持して建て替えをしていくことはいかがなものなのか。例えば、市には小中学校が32校あり、平成23年度までに1校を除いてすべて耐震工事を完了する予定ですが、その費用は非常に多額でございます。このようなことを考えたときに、それぞれの施設が本当に必要なかどうかを考えなくてはなりません。

必要な施設については、お金をかけて建て替えなくてはなりません。ここ2年の国の予算を見ましても、約40兆円の税収に対してそれを大きく上回る国債を発行していますし、今後の市の財政状況を踏まえたときに、やはり限られた財源しかないのが現状です。この財源については、施設の更新もさることながら、少子高齢化あるいは他の新たな施策にも対応する形で使わなくてはなりません。

今ある施設を使いやすくすると同時に、皆さんに迷惑がかからない範囲で公共

施設の今後のあり方を見直していくことが必要であり、そのあるべき姿について、皆様の御意見を拝聴しながら、また、御提言をいただきながら、市の施策に取り入れてまいりたいと考えております。どうぞ、委員の皆様には、これまで培われました幅広い御経験、御見識で御提言を賜りますよう、心からお願い申し上げまして、会議の冒頭の私からのあいさつとさせていただきます。

2 委員長及び副委員長の選出

委員及び事務局の自己紹介の後、稲沢市公共施設のあり方検討委員会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、委員の互選により、委員長に谷口委員、副委員長に古川委員を選出

3 議事

(1) 公共施設の現状と課題について

[委員長]

まず始めに、本日の議事の(1)「公共施設の現状と課題」について、事務局から説明をお願いします。

=事務局=

公共施設の現状と課題についてパワーポイントを用いて説明【資料1】

○質疑

[委員]

今の稲沢市は、地方交付税の交付団体なのか不交付団体なのか、財政状況はいかがでしょうか。

[事務局]

稲沢市は、現在は交付団体になっております。

[委員]

類似団体と比べ、合併によって職員数が若干多いとのことですが、現在、職員採用の状況はどうでしょうか。特に団塊の世代が多数退職するにあたり、不補充なのか、再雇用や新規採用等で補充しているのか、お聞かせください。

[事務局]

平成 17 年 4 月の合併当初は、総務関係を統合するなどなるべく職員数を減らしていくという方針の下、新規採用は退職者数の 2 分の 1 を上限として 5 ～ 6 年ほど採用を抑制してまいりました。現在はこうした抑制はせず、職員の配置計画に基づいて職員を採用しています。

[委員]

今後の職員採用の見通しについてはいかがでしょうか。

[事務局]

今後の見通しですが、単純に職員数を減らしていくということではなく、各課からどれだけ職員が必要かヒアリングを行い、退職者の人数も鑑みながら、必要な職員数を採用していく方針としております。現状としては、職員数は徐々に減っています。

[委員]

借地料の合計が年間 2 億 4 千万円とのことで、全体で借地が多いようにお見受けします。いろんな条件で買収ができなかったのだとは思いますが、30 年も 40 年も借地料を払うよりは買収した方が安くなります。買収していった方がいいと思いますが、何か理由があってできないのでしょうか、また、地権者との交渉はしているのでしょうか。

[事務局]

現在既に借地の箇所については、できるだけ買い取らせていただく方向で交渉を進めておりますが、地権者からの同意が得られていないのが現状です。市の方針としては、新しく施設を建てる場合については、どうしても必要なときは借地をしなければいけない場合もありますが、原則は買い取りとし、新規の借地をしない方針でやっています。

[委員]

借地の解消について少しでも進めていくようなシステムや計画のようなものはありますか。

[事務局]

現行としてはシステムや計画のようなものはなく、担当課で話ができるところから交渉していくという形です。

[委員]

いろんな自治体を見ていると、基本的には資産を増やさない方向で行政経営改革をしていく流れだと思うので、新しく土地を買い取るという選択肢はいかがなものでしょうか。不動産は全体的に絞り込んでいくという方向性は確認したいのですが。

[委員]

根本的な話として、先程現状と課題を説明いただいた個々の施設の中で、活用状況からして明らかに今後の存続を見直す必要があるように思われる施設がありました。今までそのような施設について市としてどのように対応してきたのでしょうか。

[事務局]

個々の施設のあり方を検討したことは所管部署ではありますが、市全体として考えるのは、これから皆さんのお力を得ながらということになります。確かにご指摘のような施設は現状としてはありますが、施設ができたいきさつであったり、地区の方にとって必要な施設であったりとか、そういった経緯で残っていると考えられます。そういったことを踏まえながらも、これから皆様の力をお借りして、ゼロベースからどうあるべきか御検討いただきたいと思います。

[事務局]

借地に関して補足いたしますと、各施設それぞれの経緯があるかとは思いますが、傾向としては、この地域は豊かな農家が多く、買収交渉しても土地を簡単に手放していただけなかったというのが要因としてあります。

それから旧平和町に借地が多いのですが、当時の町の政策として起債をなるべく抑えるということで、積極的に買収を行うのではなく、売りたいという方からは買うが、そうではない方からは借地で済ますというやり方を採っていたと聞いております。

それに対して市がどう対応していくかということですが、一度に買収するとなると多額の現金が必要になってきます。したがって、借地をすぐにまとめて解消することはできず、「買ってください」という申し出があったところからやってきたの

が今までの経緯だと思います。しかしいつまでもそういうわけにはいかないので、今後は借地のあるところをどうするか検討し、できるだけ解消していく流れが必要だと思います。

[委員]

恒久的に維持しなくてはいけない施設はともかく、それ以外の不動産は絞り込んでいくという方針は確認したいと思います。人口が減り利用者も右肩下がりの傾向で、その歯止めがかからないのであれば、不動産の総量抑制に積極的な姿勢を示さなければいけないのは確かです。ただし、それだけが目的になるといけないので、あくまでも市民に対するサービス水準は低下させない、という方針も確認しておきたいと思います。

[委員]

建物が借地の上に立っているのか市の土地の上に立っているのかは確かに大きな問題ですが、借地料もランニングコストの一部であるという捉え方もできるわけです。もちろん施設というのは維持費や人件費等の様々なランニングコストがかかるわけですが、借地料もそう言ったランニングコストの一部であるという見方をし、「トータルでこれだけのランニングコストがかかっているが、この程度の利用率ではたしてこの施設を維持すべきかどうか」と検証するのも一つの方法かと思います。先程ある委員がおっしゃったように、必要以上に土地を取得することはないと思いますので、あくまでもトータルの経費からどれだけ市民に対するサービスが提供できているのかに留意していく必要があると思います。

また、施設の廃止が前提ではないということではありますが、実質的に何らかの統廃合をしていかななくてはならないと思います。そのとき、今まで利用していた方からしたら利用していた施設がなくなってしまうのは明らかにデメリットなのですが、市民全体の単位でサービス水準の低下を避けるという視点を持たないと、どの施設も見直しができなくなってしまいますから、そういった観点で見る必要があるでしょうし、プラスとマイナス、うまくバランスをとる発想ができるといいと思います。「不便になる部分もあるけれども逆にこの部分は便利になるよ」という形でトータルバランスを維持することが大事なのかなと思います。

[委員]

イニシャルコスト、ランニングコストだけでなく、いわゆるライフサイクルマネジメント、ライフサイクルコストという考え方が必要になってくると思います。

合併で苦勞されているようですが、合併のメリットが活かされていない自治体が多いと感じます。

また、各部局の縦割りの考え方が余分な施設をたくさん生み出した背景もあると思います。いろんな施設に会議室があってトータルとしては会議室がたくさんあるけれども、部局間の連携が取れていないので稼働率が低くなっているのも一例です。今後は今ある施設を他用途に転用する問題も出てくるとと思いますが、部局の枠を取り払って使い回す考え方も改革の大きなポイントになってくるのではないのでしょうか。

[委員]

施設の稼働率の問題が上がっていましたが、私は会社員ですので、利益が出ないものに投資するのが理解できないところもある一方で、そういう利益を越えたニーズに応えられるのが役所なのだと思います。

今回、施設のあり方を検討することで、市の将来的なコストや借金を減らしたいというのはよく伝わってきましたし、この委員会はそのために話し合う場だとは思いますが、それだけしかこの資料からは見えなくて、多分次回以降で示していただけるかもしれませんが、見直しをすることによって、例えば子ども医療費が小6あるいは中3まで無料の市町村があるのですが、稲沢市もそうしたいとか、そういう具体的なものが見えるとうれしいと思います。

[委員]

190 というたくさんの施設が対象ですが、個々の施設に対してどうするのか検討するのはかなり時間がかかると思います。それぞれの施設をどうするのかを考えても、施設がなくなるというマイナス部分しか見えてこず、見直しによるプラス部分が見出せないのではないのでしょうか。

では、どういう形でプラス部分を作るか、施設は減らすがサービスレベルは落とさない、住民の満足度は落とさないということが実際どういう形で可能なのか、ということをおおきく方向性を定めた上でないと、個々の施設をどうしようかという議論は本来ならできないのではないのでしょうか。それぞれの施設の採算性だけを見て「ここはいい、ここは悪い」という形で施設存続の是非を判断するのは簡単だと思うのですが、それではプラス部分を作っていきません。どういう形だと施設のあり方を見直してなおかつプラス部分が作れるかを検討していかないと明日の稲沢は輝きませんので、そういった議論をした方がいいのかなという気がします。

逆に委員の皆さんにお伺いしたいのですが、公共施設を減らす中で、どのような

やり方をすれば市の財政的にも住民サービスの的にもプラスになるのか、今までの例で何かありますでしょうか。

[委員]

建築計画を立てる上ではいわゆるセンター主義という時代がずっと長く続きました。とにかく地域にナンバーワンの施設を造って、そこに皆が行くという時代でしたが、今はわりと脱中心主義というか、地域にいろんな拠点を分散して、小規模だけど多機能な拠点施設を造るケースが増えています。

特にそれが一番顕著なのは福祉施設です。小規模多機能が一つのキーワードになっていて、今、日本の中で先進的な福祉サービスとなっています。昔は巨大な福祉センターを造って何でもそこにあるけど、皆やっていることはバラバラ、事務室がバラバラで連携がない、そういうのはやめようという流れです。

うまく地域に分散配置された施設、例えば小学校にそういう多機能サービスを充実させ、そこに行けばワンストップでサービスが受けられるような、職員もどこかの部署に属しているというよりは、いろんなサービスの担い手となるようなものを周りの地域の人たちと一緒に協働でやっていけるような施設が一つの未来像としてはあると思います。

[委員]

私も同じことを考えていまして、やはり市の真ん中に一箇所あるのではなくて、稲沢市には旧稲沢の7市民センター地区と祖父江・平和支所地区の地域分けがありますが、そういったブロックの中にどこか拠点を設けてそこに複合施設を置いたらどうかと思います。

施設そのもののメンテナンスも、今まではそれぞれの施設に管理者がいる形でしたが、複合施設内に中央管理事務所を設置して集中的に施設全体のメンテナンスを行えば、施設がバラバラに存在するよりもメンテナンスに費用がかかりません。

例えば、複合的な施設として学校と図書館と市民センターと福祉機能が一つの敷地内にあり、そこに行けば住民票を取るついでに図書館に寄って本を借りることができ、デイサービスを受けた後に市の用事を済ます等、ワンストップでできるような形で、いろんな年代の人たちが足を運ぶようになると、そこを中心にコンビニができたり飲食店もできたりして民間の商業施設も出店しやすくなって、その地域のまさしく拠点になる、そういう姿にすれば見直しのメリットが住民の目に見えやすい形で提供できるのかなと思います。

もちろん新たに施設を造ることになりお金がかかる話になるのですが、施設をな

くすだけではだめだと思います。コストを今までより抑えた形で集積率を上げて拠点づくりをしていくことを考えれば、満足度や利便性を下げない形で何か実現できるのではないかと思います。

[委員]

ほぼ同感です。今はわりと荒廃した市街地が多いですが、荒廃しないまちづくりが必要だと思います。

[委員]

そのためには公共施設がある程度市内にバランス良く分散していることが必要です。そうすれば、市の中で地域格差が少なくなると思います。

[委員]

そういう意味では、子どもとお年寄りの徒歩圏で、しかも余裕教室がたくさんあり、耐震工事も大体終わっている小学校が一番いいかもしれません。建物のクオリティが低いのが問題ですが。

学校給食センターで老人の給食サービスも調理したらどうかとか、お年寄りに学校に食事に来てもらったらどうかとか、今までのタテ割りの考えを変えてみることで、職員の意識改革が必要になってくると思います。

[事務局]

ただ今の委員のお話の中で、旧稲沢市につきましては、市民センター地区として各中学校区で7つの区域があります。市民センター構想といって、児童センター、老人福祉センター、公民館、出張所としての窓口機能の4つの機能を一か所に集約する形で整備してきました。一体型の複合施設は下津や大里東など一部しかありませんが、お子様からお年寄りまで集うような拠点ということで市民センター地区ごとにそれら4つの施設を設置しております。建て替え時には施設を複合化して維持管理費用を縮減しており、考え方としては委員のおっしゃるとおりです。

(2) 稲沢市の人口動向について

[委員長]

次に、議事の(2)「稲沢市の人口動向」について、事務局から説明をお願いします。

＝事務局＝

稲沢市の人口動向について説明【資料2】

○質疑

[委員]

これまでの人口動向を見ると、あまり楽観的な考えができる動きではないですね。少子高齢化対策が必要ですね。

[委員]

先程の説明でもあったのですが、小学校で1学年1クラスしかない学校がかなりあります。人口動向から見てもそのような学校が増加することが予想されます。

小学校は施設の経済的観点ではなく教育的観点で考えなくてはならないと思います。1学年1クラスだと6年間ずっとクラス替えがありません。果たしてそれが良いことかどうか、そんな視点で学校施設のあり方について考えをまとめていかなくてはならないと思います。

コミュニケーション能力の開発というのは、初めて出会う人とどう関係するかが大きく作用します。クラス替えがない状態がずっと続くと、小さい子のコミュニケーション能力の開発に少なくともプラスにはならないので、せめてクラス替えできる程度の児童数がほしいと思います。1クラスの人数が少ないのは構いませんができるだけシャッフルする機会を作る必要はあると思います。

[委員]

少子化に関しては、子どもの人数が少なくなるということで危機をイメージしやすく、クラス替えできるように学校規模を考え直すなどの動きがあると思うのですが、少子高齢化の「高齢化」の方の対策として、今後人数が増えると予想される高齢者に対してどうしたらよいとお考えですか。

[委員]

できるだけ健康で長生きしたいと思うので、そういう生活が送れる環境が必要だと思います。孤独死とか悲しい事例もありますが、そういうことがないように周りが支える環境づくりですね。

一方で、少子化問題では子育て支援や男女共同参画で女性が働き続けられる環境づくりも必要です。保育園の待機児童が多い時代なのに、稲沢市でこれだけ入所率が低いのは問題ですね。不動産を減らしつつサービス水準を維持し、どの世代も安

心して住めるまちづくりができればと思います。

[委員]

もちろん健康で豊かな生活をしていただくというのが必要ですが、コミュニティや社会との接点をどういう形で確保していくかが高齢者に関しては課題だと思います。今後は独居老人が増えることが予想されますが、社会とのつながりが切れてしまうと、先程おっしゃられた孤独死のような社会問題が起こる可能性があります。高齢者が社会とのつながりを維持できる仕組み、施設、サービスを市に提供していただくとよいのかなと思います。

高齢者が無料で使えて、集まって囲碁将棋をしたりする施設が既に稲沢にはかなりあります。そういった福祉施設は現在の採算性だけでなく、将来高齢者人口が増えるという前提であり方を考えていかなくてはいけないと思います。

[委員]

公共財として、経済性・効率性とサービス水準維持という二つの一見相反する要因をどうするかは今後も議論が必要ですね。

(3) 稲沢市のこれからの公共施設のあり方に関する市民意識調査について

[委員長]

次に、議事の(3)「稲沢市のこれからの公共施設のあり方に関する市民意識調査」について、事務局から説明をお願いします。

=事務局=

稲沢市のこれからの公共施設のあり方に関する市民意識調査について説明

【資料3】【資料4】

○質疑

[委員]

17 ページという分厚いアンケートですが、回収率がどうなるか気になります。

[事務局]

過去の市政世論調査の状況を見ますと、同じ2週間の回答期間で65%の回収率でしたので、今回も同程度の回収率を期待しています。

[委員]

さわやか隊の間1でいきなり「関心ある・ない」を聞く前に、「知っている・知らない」の認知状況を聞いた方がよいのではないのでしょうか。

また、各施設を利用する際の交通手段を聞けただけでいぶん今後のあり方検討のヒントになるのではないのでしょうか。車による利用者が多いのであれば施設が遠くなっても大きな負担はありませんが、徒歩や公共交通機関による利用者が多いと不便の度合いが増す可能性があります。

[事務局]

さわやか隊につきましては、当初の原案では委員御指摘のとおり設問がありました。ですが、内部で議論する過程の中で、「知らないと答えられた方がその後の設問に答えられるのか」という意見があり、すべての方に設問に答えてほしいという願いを込めて現在の形にしました。知らなかったけれども関心をお持ちになる方もいらっしゃるかもしれません。

それから交通手段の設問に関しては、市内には名鉄バスは1路線しかなく、コミュニティバスも2時間に1本しか走っていないため、施設へ行く手段としては車が大半で、それ以外は徒歩、自転車しかないのが現状です。そうしたことからあえて設問としては入れなかったのですが、委員の御指摘を踏まえ、再検討します。

[委員]

車でしか移動できないとのことですが、高齢者はいつか車が運転できなくなりますよね。そういった部分に対して今から配慮していく必要があるのではないかと思います。施設のあり方を考えるのにすごく重要ではないにせよ、どうか頭の片隅に入れておいていただきたいと思います。

[委員]

さわやか隊の隊員が1,600人もいるのはすごいですね。申し込みにあたって5人以上で応募というのが少しネックになる気がするのですが、なぜメンバーを募らないとダメなのですか。

[事務局]

お一人で活動された場合、第三者に注意したときに危害が及ぶ可能性がありますので、グループで御活動いただいております。

[委員長]

ほかに御意見よろしいでしょうか。次回の委員会で調査結果の速報をお示しいただけるんですよ。

[事務局]

集計結果の概要版をお示ししたいと思っております。

[委員長]

それでは、本委員会としては、本日の議論を調査票に反映していただいた上で、調査の実施を事務局に一任したいと思います。

(4) その他

[委員長]

これで、本日の議題はすべて終了しました。
その他、事務局から何かありますでしょうか。

[事務局]

今後の日程について申し上げます。

今回御承認いただいた市民アンケートについては、年内実施ということで進めていきたいと考えております。その後、第2回委員会を来年2月9日(木)、第3回委員会を来年3月28日(水)に開催する予定ですので、皆様御承知いただきますようよろしくお願いいたします。なお、時間は本日と同じ時間を予定しています。委員の皆様には改めて通知いたします。

[委員長]

ではこれで会議を終了したいと思います。その他、事務局から何かあればお願いします。

[事務局]

終了予定時間を過ぎておりますが、本日は長時間にわたりありがとうございました。

委員の皆様から賜りました御意見を踏まえ、今後の事務を進めてまいりたいと思います。

それでは最後に、市長公室長からあいさつ申し上げます。

4 市長公室長あいさつ

本日は、初回にもかかわらず活発な御議論を頂戴いたしまして、また、いろいろな御提言もいただきましてありがとうございました。今後とも忌憚のない御意見、御提言をいただきますよう、よろしく願いいたします。

また、本日、委員の皆様のお手元に荻須記念美術館で現在開催中の「生誕 110 年記念 荻須高德展」の御案内を申し上げます。12 月 18 日(日)までの開催でまだ 1 か月程度ございますので、お時間がございましたら御高覧いただけると幸いです。

本日は冷え込んでまいりまして足元かなり寒いかと思えます。そのような状況の中、本当にありがとうございました。